市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	やんばる地域情報発信プロモーション委託事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(1)－イ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	企画商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－12－(3)

事業内容

当事業では、自然が保全されているやんばるエリア（国頭村・大宜味村・東村）の地域観光情報を広く発信、集客活動を実施し、観光活性化を推進、観光を基軸とした新たな地域のまちづくりを図るものである。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,376				
	(b) 予算現額	22,376				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	22,376	0			
B. 執行済額		22,061				
うち交付金充当額		17,648				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.6%				

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
全国情報誌（るるぶやんばる）の発行	目　標	（　13,000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	13,000部			
観光プロモーション実施	目　標	（　2回　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	2回			
観光資源メニュー開発	目　標	（　2件　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	2件			

達成状況説明：やんばるの魅力の周知拡大、観光による地域活性化を目的に、「るるぶやんばる」を全国書店、コンビニで13，000部販売した。発刊の告知とやんばるの認知度を高めるため販促プロモーションを2回実施した。1回目は3月2日～3日に東京、銀座わしたショップでるるぶやんばるの販売や、「やんばる特産品があたる抽選会」、「駅前、店頭でのビラ配り」、「沖縄に縁のある、吉本興業芸人によるトークショー」、「やんばる産しめじ無料配布」などを実施した。2回目は、ジュンク堂那覇店で、国頭・大宜味・東　3村長による記者発表をはじめ、「やんばる特産品があたる抽選会」、「FEC芸人によるトークショー、アイモコミニライブ、写真家によるトークショー」、「やんばる産しめじ無料配布」、「やんばる写真展」などを実施した。他、7つのWebサイトでの告知、ラジオ、新聞などでの告知も実施し、その成果もあり、発行部数の13，000部は4月末で在庫が無くなり、各店頭に残るのみとなりました。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
①全国情報誌（るるぶやんばる）の発行 ②観光プロモーション実施 ③観光資源メニュー開発	目　標	（　－　）	（　13,000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		13,000部			
観光プロモーション実施	目　標	（　－　）	（　2回　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		2回			
観光資源メニュー開発	目　標	（　－　）	（　2件　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		2件			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：るるぶやんばるの発刊、観光プロモーション実施、観光資源メニュー開発を全て実施、完了し、それらを活用し、観光客の増による、地域活性化を図る。

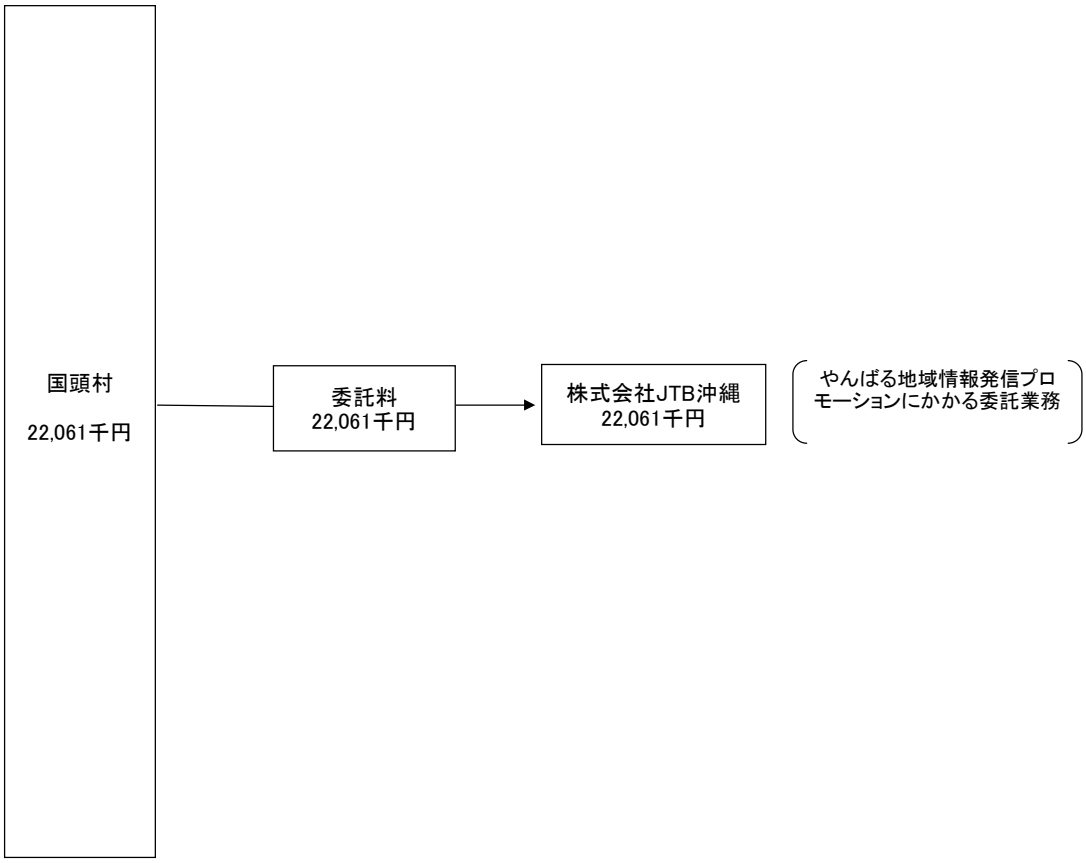
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	事業を推進する上で、国頭・大宜味・東3村の情報確認、呼びかけ、取材の段取りが重要だった。やんばる3村（国頭・大宜味・東）が情報誌発刊に向けて連携を密にするのが重要だった。	情報誌作成の役割分担。3村それぞれで地元の情報の事実確認作業、校正を行った。るるぶやんばる販売促進のため、3村長調整していただき、販売記念記者会見を実施した。（3村連携で村をあげて取り組んでるという姿勢、告知）

今後の取り組み方針

るるぶやんばる発刊後の観光客の増による、受入体制の強化。（迅速な窓口対応、体験メニューの充実、各種サービスの向上）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,061	22,061	17,648	4,413	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	＊委託事業者は、指名競争入札により選定しており、妥当であった。 ＊予算規模、内容は目的に達しており、費用・使途についても事業の目的に対し、適正に執行されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	産業まつり誘客推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(1)－イ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４～平成２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－12－(3)

事業内容

産業まつりにおいて、観光客を含めた参加型のイベント（民謡ステージ・魚つかみ取り大会・交流ゲーム）を開催し、村民と県内外の観光客との交流の場を提供することにより、国頭村の魅力や認知度の向上を図り、リピーターの増大につなげる。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,000				
	(b) 予算現額	1,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,000	0			
B. 執行済額		1,000				
うち交付金充当額		800				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
産業まつり開催支援	目　標	（産業まつりの支援）	（　）	（　）	（　）
	実　績	産業まつりの支援			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：まつり実施の２日間、天候にも恵まれ観光客を含めた参加型のまつりイベントを開催することができた。魚つかみ取り大会では国頭漁業協同組合の定置網で捕れた魚を活用し、交流ゲームでは国頭村の特産品を賞品にして国頭村の魅力や認知度の向上を図ることができた。また、民謡ショーについては、村民と観光客が一緒になって沖縄の若手民謡歌手の歌を聞き、最後にはカチャーシーで楽しむことができた。次年度においても広報等も含めて支援していく考えである。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
産業まつり会場への来場者数	目　標	（－）	（3,400）	（　）	（　）	（5，000人）
	実　績	3，000人	3，877人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：新たなイベントとして開催した魚つかみ取り大会は幼稚園児・小学生に分け、20人以内で4回実施し合計73名の参加があった。 交流ゲームは、274人が参加し会場を盛り上げることができた。来場者数基準値の平成23年度3，000人より今年度は増となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○産業まつりの開催時期は2月となっているため、民謡ショーを開催した夕方は気温が下がる。昼間の村外からの来場者のピーク時を検証しプログラムを組む必要がある。 ○広報活動については特に重要だと感じている。 ○まつり会場施設の駐車場面積が、今後の目標来場者数達成のためには狭い状況となるので、臨時駐車場の確保と誘導方法については再度検討が必要となる。	産業まつり全体の運営及びイベント内容や実施日時について、まつり幹事会で検証し目標達成にむけ取り組みたい。

今後の取り組み方針

○魚つかみ取り大会は人気があった。今後のまつりの主イベントとして実施し、5年後の目標数値達成に向けて取り組みたい。まつり全体のプログラムや開催イベントについて検証し、次年度開催に向けて取り組みたい。
○広報活動については、新聞広告やラジオ放送及び村のホームページ等の活用で誘客に努めて行きたい。
○国頭村の新たな特産品開発を進めながら、食材等も含めてアピールし地域の産業振興に努めて行きたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,000	1,000	800	200	0

国頭村
1，000千円
→
補助金
1，000千円
→
国頭村産業まつり
実行委員会
1，000千円

産業まつりイベント開催に係る補助
○使用料及び賃貸料
○広告宣伝費
○委託費
○その他経費

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助団体は、国頭村の産業に関わる団体で実行委員会を組織し　た団体であり妥当であったと考えている。 ○支出については、目標達成のため必要な支出であると実績報告時に確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	森林セラピーガイド認定システム等構築事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(1)－イ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

国頭村の推進する森林セラピーの受入体制を充実させ、森林を活用した交流人口の増加を図るため、国頭村森林セラピー推進協議会との連携により、他地域の森林セラピーガイド認定システムを調査し、国頭村独自の森林セラピーガイド認定・登録制度の検討を行った

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,673				
	(b) 予算現額	1,673				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,673	0			
B. 執行済額		891				
うち交付金充当額		712				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		53.3%				
予算の状況の説明		不用額の多くは、報償費の減と旅費及び委託の入札残である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
森林セラピーガイド認定制度の検討	目　標	（　認定制度検討　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	認定制度検討			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：全国の事例を参考にしながら、認定制度検討会議（3回）を行い、国頭村の実情に即した森林セラピーガイド認定制度を検討できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
森林セラピーガイド認定制度の検討	目　標	（　－　）	（認定制度検討）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		認定制度検討			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：認定制度検討会議（3回）実施により、認定制度（案）を策定し、協議会に諮り、平成25年度から実施していく。

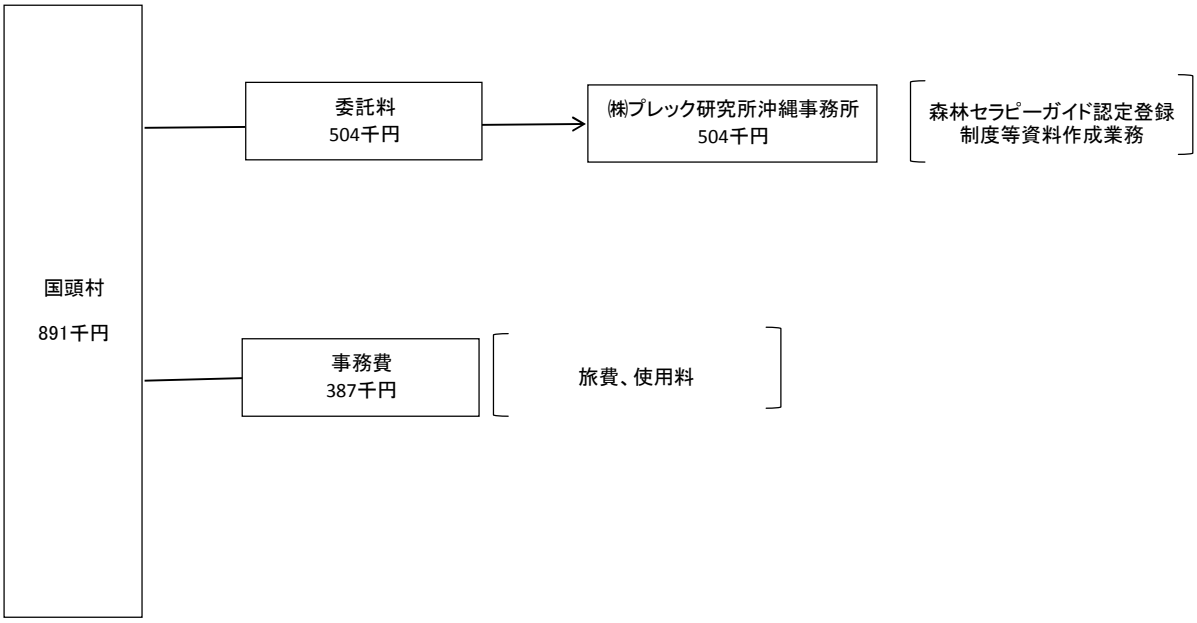
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	森林を活用する取組の中で、森林セラピーの位置付けが周知不足 認定を受けてからのガイドスキルアップの取組が重要	WEB等を活用した森林セラピーの周知 ガイドスキルアップの取組の実施

今後の取り組み方針

平成24年度の結果を踏まえ、森林セラピーガイド認定制度を実施していくともに、民間組織主体のスキルアップを実施していく

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
891	891	712	179	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	必要最小限の予算により、事業を行うことができた
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	受入民間団体体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(1)－イ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	森林セラピーの受入体制を充実するため、観光客を受入れる民間団体の組織化を図るとともに、ガイド研修などの人材育成を実施し、受入組織体制の強化を図った。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,868				
	(b) 予算現額	3,868				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,868	0			
B. 執行済額		2,642				
うち交付金充当額		2,113				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		68.3%				
予算の状況の説明		不用額の多くは、実質人件費の差額と安価な航空チケットの使用による旅費の削減				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
森林セラピーの受入民間団体への支援	目　標	（　受入団体支援　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	受入団体支援			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	受入団体の支援により、民間受入団体の組織化が実現し、月１回程度の体験ツアー実施も可能となった。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
森林セラピーの受入民間団体への支援	目　標	（　－　）	（受入団体支援）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		受入団体支援			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	受入団体の支援により、民間受入団体の組織化が実現し、月１回程度の体験ツアー実施も可能となった。					

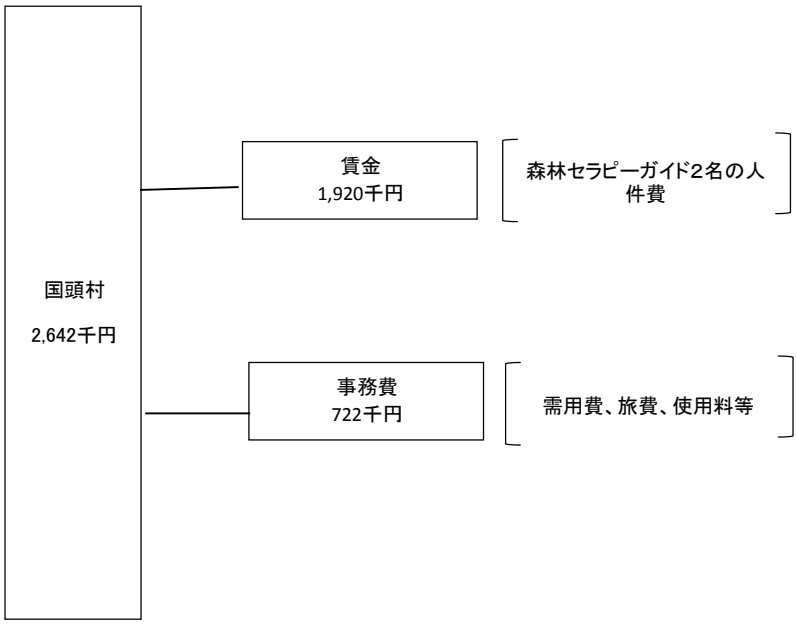
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平日対応の森林セラピーガイドが少ない	ガイド養成講座の実施。

今後の取り組み方針

平成24年度の結果を踏まえ、ガイド養成講座を継続して実施しながら、人材を増やしていく

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,642	2,642	2,113	529	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	必要最小限の予算により、事業を行うことができた
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-④	癒し食メニュー開発及びモニターツアー実施事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(1)－イ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

森林セラピープログラムの充実を図るため、「健康・長寿おきなわ」の根源をなす地域食材と4つのセラピーロードの特徴を活かした癒し食メニューを開発するとともに、癒し食メニューを含んだモニターツアーを実施した。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,012				
	(b) 予算現額	4,012				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,012	0			
B. 執行済額		2,987				
うち交付金充当額		2,389				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		74.5%				

予算の状況の説明：不用額の多くは、安価な航空チケットを使用による旅費の削減

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
癒し食体験モニターツアー実施	目　標	（モニターツアー1回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	モニターツアー1回			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：癒し食開発、モニターツアー実施とも予定していた事業は実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
癒し食体験モニターツアー参加者数	目　標	（－）	（10人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		17人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：ﾓﾆﾀｰﾂｱｰ参加者は、関東圏、関西圏、九州圏とまんべんなく参加者が得られた。

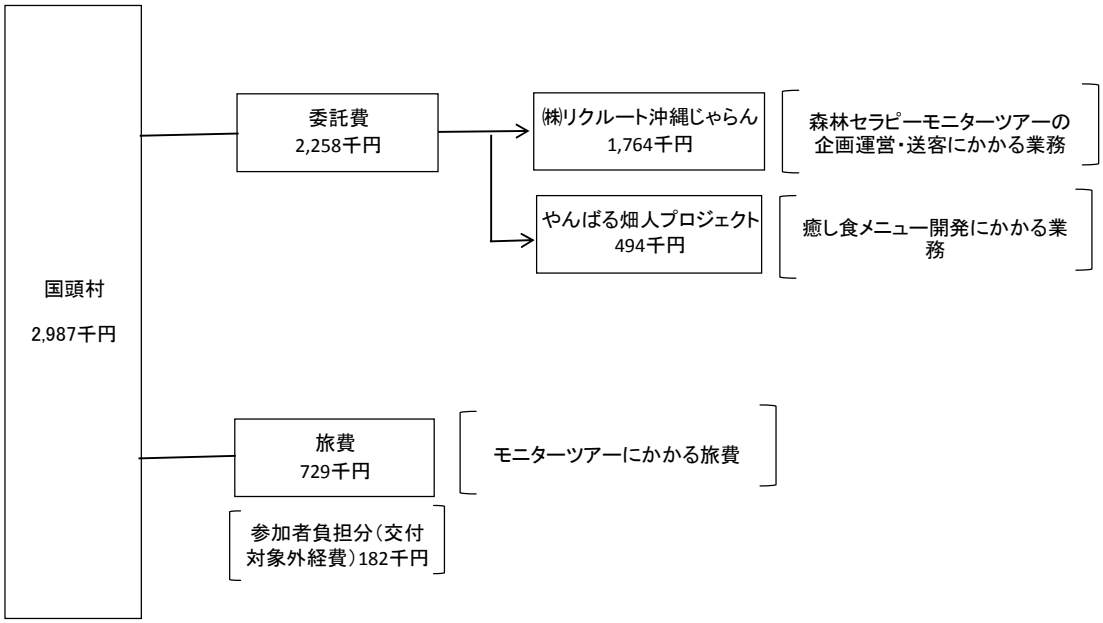
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	モニタツアー参加者のアンケートから、森林セラピーの認知度の低さがうかがえる。 参加者の満足度は得られたが、県外から国頭までの移動コストの削減が必要	WEB等を活用した森林セラピーの周知 県外観光客に、おきなわ旅行とセットにした森林セラピーメニューの提供をする

今後の取り組み方針

平成24年度の結果を踏まえ、WEB等を活用した森林セラピーの周知及び旅行業者と連携したメニューの開発

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,169	2,987	2,389	598	182



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	必要最小限の予算により、事業を行うことができた
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	「木育」インストラクター・「木育」マイスター養成講座事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

国頭村木材を活用した「木育」の推進に不可欠な「木育」インストラクターや、木育玩具を製作する「木育」マイスターを養成し、「木育」推進体制の構築を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,712				
	(b) 予算現額	1,712				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,712	0			
B. 執行済額		1,081				
うち交付金充当額		865				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		63.1%				

予算の状況の説明：不用額の多くは、養成講座集中開催による旅費の削減と、講座会場を公的施設利用による使用料の減である。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
「木育」インストラクター・マイスター養成講座の開催	目　標	（講座6回）	（　）	（　）	（　）
	実　績	講座8回			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：「木育」インストラクター・「木育」マイスター両養成講座とも、計画通り実施できた。
講座会場を借用した中学校の要望に応え、生徒たちへの木育講座も実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
養成講座参加者数	目　標	（－）	（15人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		16人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・講座の初回には、両講座とも13人の参加者で実施されたが、それぞれ4講座を通して受講した参加者は、各8人であった。

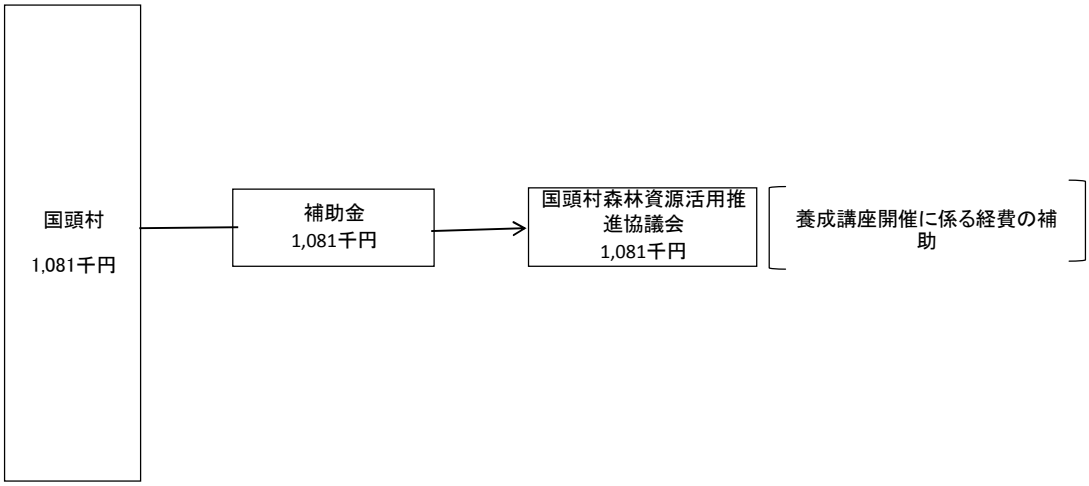
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村内では、木育の認知度は、高くない。 ・休日以外の木育活動を担う人材がいない。 ・木育を継続的なものにするには、かかわる人の生業に繋がるものにする必要がある。	・木育活動を担う人材の早急な育成。

今後の取り組み方針

・平成24年度の結果を踏まえ、人材育成を継続するとともに、沖縄県や木育関係者と県内木育ネットワークを築きサポート体制を確立する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,081	1,081	865	216	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・必要最小限の予算により、事業を行うことができた
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	「木育」イベント等出展PR事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

県内で開催される「木育」イベント等に参加し、国頭村木材おもちゃの普及を図るとともに、全国の木のおもちゃ職人が集結する“森の恵みの子供博”へ出展し、国頭木材による木のおもちゃのPRや他地域の職人等と交流によるスキルアップを図った。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,089				
	(b) 予算現額	1,089				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,089	0			
B. 執行済額		686				
うち交付金充当額		548				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		63.0%				

予算の状況の説明：不用額の多くは、安価な航空チケットを使用等による旅費の削減と、展示ブース使用料の減である。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
木育イベント開催件数	目　標	（　イベント3回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	イベント3回			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：大きな木育イベントへの出展は、県内2回、県外1回行ったが、村民向けへの周知のため、講演会や実践講習会等も行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
木育イベント参加者数	目　標	（　－　）	（　500人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		573人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：木育イベントの参加者は、県内の木育の高まりもあり、目標値を上回った。

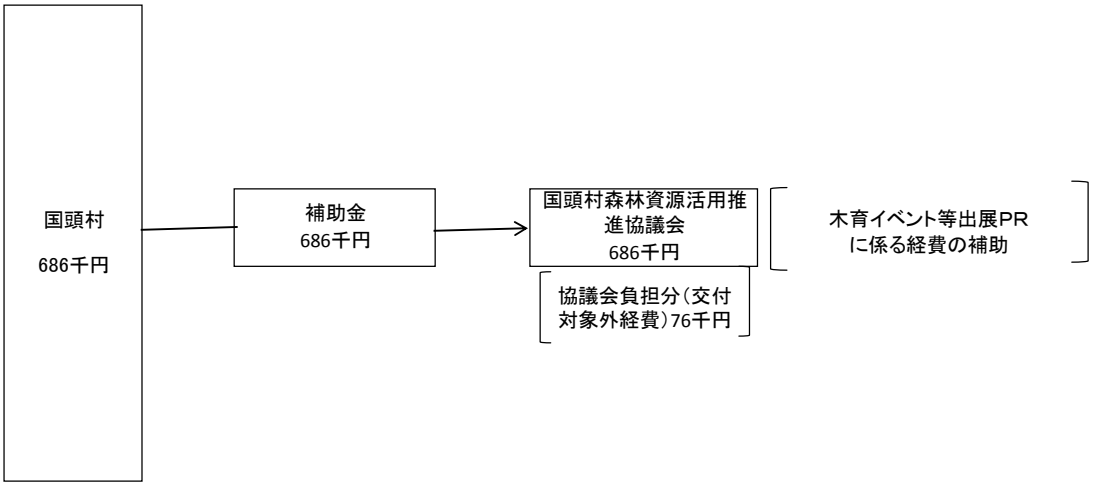
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	県内の木育は参加者増加などから高まり見せているが、木育玩具は県産品がほとんどない。 国頭村の木育活動を担う人材の養成が急務である。	人材養成を早急に行い、県内木育ネットワークを築きサポート体制を確立する。

今後の取り組み方針

平成24年度の結果を踏まえ、沖縄県や木育関係者と県内木育ネットワークを築きサポート体制を確立する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
762	686	548	138	76



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・必要最小限の予算により、事業を行うことができた
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4	国内外水族館「観賞魚」の供給体制構築事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－イ 流通・販売・加工対策の強化
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４～２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

定置網等で水揚げされた魚を「観賞魚」として県外水族館に供給できる体制構築を目指し、国内水族館の亜熱帯の魚のニーズ調査及び関係構築によるネットワーク化に取り組む。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	714				
	(b) 予算現額	714				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	714	0			
B. 執行済額		712				
うち交付金充当額		569				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.7%				

予算の状況の説明：不要額が2千円発生しているが、旅費の精算額による残額であり、当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
国内水族館のニーズ調査及びネットワーク形成	目　標	（　3箇所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3箇所			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：国内水族館のニーズ調査及びネットワークの形成について、大阪府の海遊館、京都府の京都水族館、東京都のすみだ水族館を訪問し、意見交換が出来た。今回の調査では国内の有名な水族館や新規で話題の水族館に訪問できたことは、非常に有意義であった。3つの水族館で共通して確認できたことは、亜熱帯の魚の入手については、やはり沖縄県から入手できることは魅力的であることがわかった。今後の供給体制についても、各水族館でニーズがある亜熱帯の魚種を、小口でも定期的に取引できる体制が構築することは可能であることがわかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
国内水族館のニーズ把握及びネットワーク強化	目　標	（　－　）	（　3箇所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		3箇所			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：国内の3つの水族館（海遊館、京都水族館、すみだ水族館）は、直接訪問し今後のネットワークの形成について大筋合意形成が図れた。あと、東京都の葛西臨海水族園については、担当者が直接国頭村に訪問していただき、意見交換が実施されるなど、今後の取引について期待できる状況である。

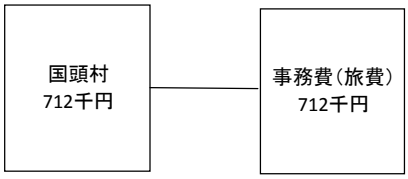
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（1）各水族館でニーズのある魚種と時期が違うので、情報発信のあり方について検討が必要である。 （2）大口注文の場合は、活魚車での輸送などで対応可能であるが、小口の注文に対して物流体制を構築する必要がある。	（1）情報発信のあり方については2通りの考え方があり、1つは、各水族館から早めにオーダーを提出してもらい、対応できる魚種を確保するパターンと、もう1つは、フェイスブック等のネットワークを活用して、最新情報を定期的に発信し、ニーズのある魚種があった場合に注文頂くスタイルを検討している。 （2）小口注文の対応については、活魚車等で輸送すると物流コストが割高になるので、空輸で対応できるコンテナ等を開発する必要がある。

今後の取り組み方針

今後展開としては、上記に記載された留意点及び改善策をベースとして、物流体制の構築（陸・海・空）を行い、注文内容によって物流コストがかからない体制を構築することで、受注増加を目指す。また、情報発信のあり方として、国頭漁業協同組合のフェイスブック公式アカウントを構築し、情報発信を行うことでマーケットの反応を検証する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
712	712	569	143	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	事業目的達成の観点から必要な支出であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-③	緑の美ら島づくり環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４年～平成２８年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

村内には、ノグチゲラやヤンバルクイナ等その他都会では発見が困難な動植物が多数あり、村道、林道は観光の通行手段及び観光の場所としての利用も多い。特に森林セラピー、森林ツーリズムなど森林の癒しの効果や自然観察等を目的に訪れる観光客への満足度を高めるため、観光地周辺や林道沿いの不法投棄、散乱ゴミの回収や雑草の除去等実施し、安全で快適な観光地として、」リピータの増加を目指す。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,400				
	(b) 予算現額	5,019				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 6,381				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,019	0			
B. 執行済額		5,019				
うち交付金充当額		4,015				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

当初計画していた事業内容は、交付決定が遅れたため事業量及び事業費を減にし、実施した。成果目標の景観美化実施箇所数3箇所については達成しており、事業日数から見て適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
景観美化実施箇所数	目　標	（　3箇所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	7箇所			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

観光地周辺および林道沿いの不法投棄、散乱ゴミの回収や雑草の除去を実施し、安全、安心、快適な観光地、観光地へのアクセス道路として整備することができ、森林セラピー、森林ツーリズム、自然観察等で訪れる観光客への満足度を高めることができる。

成果目標（指標）及び進捗状況

		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
景観美化実施箇所数	目　標	（　－　）	（　3箇所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		7箇所			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

観光地周辺および林道沿いの不法投棄、散乱ゴミの回収や雑草の除去を実施し、安全、安心、快適な観光地、観光地へのアクセス道路として整備することができ、森林セラピー、森林ツーリズム、自然観察等で訪れる観光客への満足度を高めることができる。

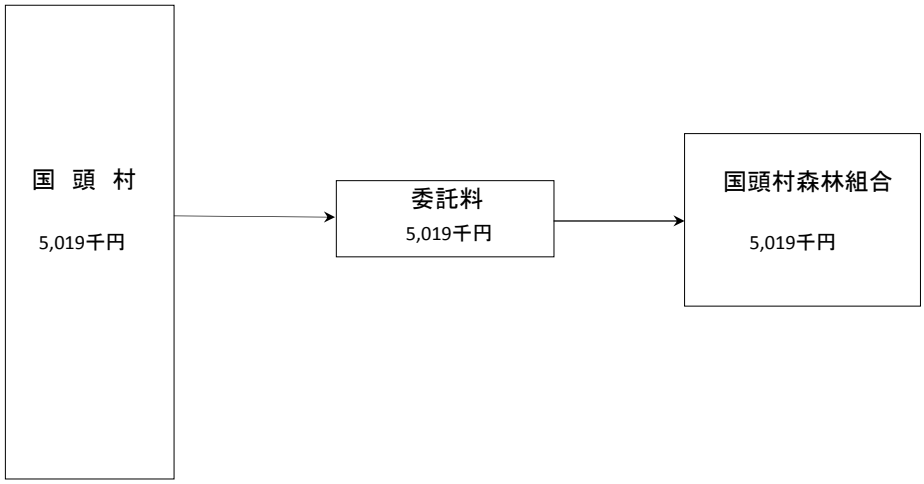
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	活動実績、成果実績について、3月から5月の雑草の成長が早く、当初見込みの年1回の除草で年間の成果を出すにはかなり困難であると思われる。	本事業は森林セラピー、森林ツーリズムなど森林の癒し効果や自然観察等の目的の観光客への満足度を高めるためのものであり、農薬の使用、コンクリート張りなど人工的なものでの防草対策は好ましくないため、年2回の除草を実施するか、夏から秋期に掛けて成果を重視し効果を高めるための検討を行う。

今後の取り組み方針

本事業は森林セラピー、森林ツーリズムなど森林の癒し効果や自然観察等の目的の観光客への満足度を高めるためのものであり、農薬の使用、コンクリート張りなど人工的なものでの防草対策は好ましくないため、年2回の除草を実施するか、夏から秋期に掛けて成果を重視し効果を高めるための検討を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,019	5,019	4,015	1,004	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は随意契約により国頭村森林組合と契約しているが、実績、知識、集積場等地理的条件の観点から選定しており妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－①	文化財観光資源化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

国頭村における文化財の観光資源化を目標に事業を行う。平成24年度は指定文化財「義本王の墓」の観光資源化のためその周辺踏査・文献調査等を行い、観光活用の土台を作る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,980				
	(b) 予算現額	2,980				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,980	0			
B. 執行済額		2,791				
うち交付金充当額		2,233				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		93.7%				

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
「義本王の墓」の調査及び整備	目　標	（周辺踏査・文献調査）	（　）	（　）	（　）
	実　績	周辺踏査・文献調査			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：「義本王の墓」の周辺文化財等の踏査を行うことにより、この墓が歴史的な位置づけの把握、また文献等の調査により、伝わっている義本王の伝説等の内容を集成し、観光活用のための資料とした。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
「義本王の墓」の調査及び整備	目　標	（－）	（周辺調査・文献調査）	（　）	（　）	（　）
	実　績		周辺調査・文献調査			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初目的のとおり、周辺踏査・文献集成を行った。

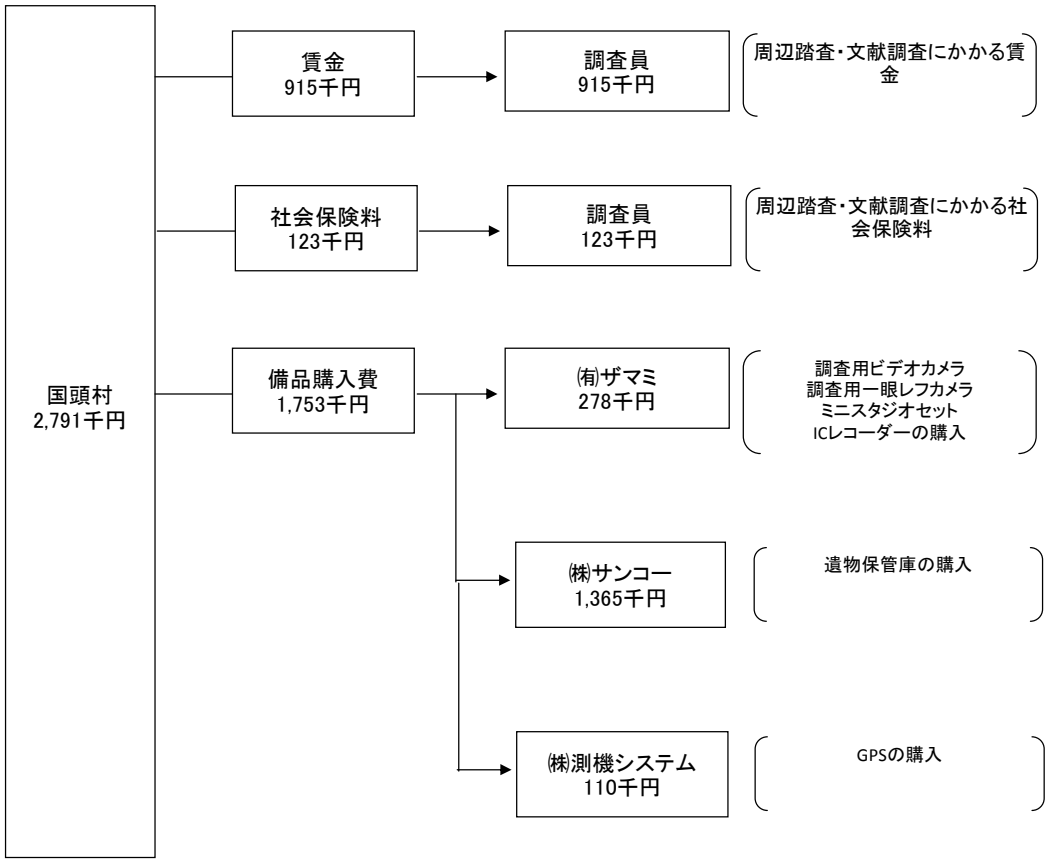
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	周辺踏査の一環として地域住民に「義本王」に関する聞き取りを行ったが、それについて詳しく知る者を探し出すことができなかった。地域住民のこの文化財に対する認識を高めることの重要性を感じるとともに経年により収集できる情報が少なくなっていることが推進上の問題であった。	聞き取りに当たっては事前に地域の昔を知っている人物の抽出を行う等の工夫が必要であった。「義本王」のみではなく、その他地域の昔のことを聞き取りすることによって少しでも「義本王」に関連する事柄のヒントを得ることが必要であった。

今後の取り組み方針

文献集成についてはとくに問題はなかったが、聞き取りにおいて経年により得られる情報が少なくなっていくことが推進上の問題点としてあげられた。そのことを念頭に、今得られる最大限の情報を得るため、聞き取り人物の抽出やアンケートの実施等の工夫をする必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,791	2,791	2,233	558	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員は国頭村「職員の臨時的任用に関する規則」に沿って選定を行った。 ○備品購入業者は、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－②	文化財観光振興事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	国頭村指定文化財「義本王の墓」の記録・修復等を行い、そこから得られた情報をもって周知を図るとともに観光活用の土台を強化する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,746				
	(b) 予算現額	16,746				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	16,746	0			
B. 執行済額		16,325				
うち交付金充当額		13,060				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.5%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
「義本王の墓」の記録・修復に係る調査や植物調査等の実施	目　標	（記録・修復調査、植物調査）	（　）	（　）	（　）
	実　績	記録・修復調査、植物調査			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	「義本王の墓」の詳細な記録（石積み・墓本体の図化等）や墓本体の修復を行うことにより、この墓の構造やその建築技術の把握、また周辺の植物調査と併せて、現在残っている墓の情報の抽出をおこない、それをもとに報道機関を通じて「義本王の墓」の観光活用に向けての事業が行われていることのPRと調査経過を村内施設に掲示し、観光振興とした。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
「義本王の墓」の記録・修復に係る調査や植物調査等の実施	目　標	（－）	（記録・修復調査、植物調査）	（　）	（　）	（　）
	実　績		記録・修復調査、植物調査			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	当初目的のとおり、「義本王の墓」の詳細な記録、周辺植物調査を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	観光振興を行う上ではとくに課題等は見られなかったが、調査経過PRの掲示について、観光振興としては当初予定していた村内2施設の掲示では少ない可能性がある。	施設掲示の数を増やすとともに、周辺の民間観光施設と連携し、「義本王の墓」を中心とした文化財ツアー等それ以外の振興策を行う必要がある。

今後の取り組み方針

今後は調査経過を掲示する施設を増やすとともに、周辺の民間観光施設と連携し、「義本王の墓」を中心とした文化財ツアー等を計画し、観光客増加を目指すなどの方策をおこなう。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,325	16,325	13,060	3,265	

国頭村
16,325千円

→ 委託料
16,325千円

→ ㈱埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店
16,325千円

（記録・修復調査にかかる業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－③	文化財観光活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア 文化資源を活用したまちづくり
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

文化財観光資源化事業、文化財観光振興事業によって得られた成果を基に、文化財説明版や案内板の設置を行い国頭村観光コンテンツとして文化財を活用する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,750				
	(b) 予算現額	4,750				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,750	0			
B. 執行済額		4,150				
うち交付金充当額		3,320				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		87.4%				

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。執行残は入札残のため。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
文化財総合案内サイン設置	目　標	（文化財総合案内サイン設置：1基）	（　）	（　）	（　）
	実　績	文化財総合案内サイン設置：1基			
解説サイン設置	目　標	（解説サイン：2基）	（　）	（　）	（　）
	実　績	解説サイン2基			
誘導サイン設置	目　標	（誘導サイン7基）	（　）	（　）	（　）
	実　績	誘導サイン7基			

達成状況説明：周辺の大きな観光地である辺戸岬から義本王の墓まで、観光客の誘致を目的にサインの設置を行った。辺戸岬に「義本王の墓」とその周辺文化財の状況を記した総合案内サインを設置、墓までスムーズに移動できるようにする誘導サインと、墓周辺踏査や文献調査・記録修復調査等で得られた情報をもとにした解説サインを設置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（27年度）
文化財総合案内サイン設置	目　標	（－）	（文化財総合案内サイン設置：1基）	（　）	（　）	（文化財総合案内サイン設置：2基）
	実　績		文化財総合案内サイン設置：1基			
解説サイン設置	目　標	（－）	（解説サイン設置：2基）	（　）	（　）	（解説サイン設置：4基）
	実　績		解説サイン設置：2基			
誘導サイン設置	目　標	（－）	（誘導サイン設置：7基）	（　）	（　）	（誘導サイン設置：12基）
	実　績		誘導サイン設置：7基			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初の予定通り、文化財総合案内サイン設置1基、解説サイン設置2基、誘導サイン設置7基の設置を行った。

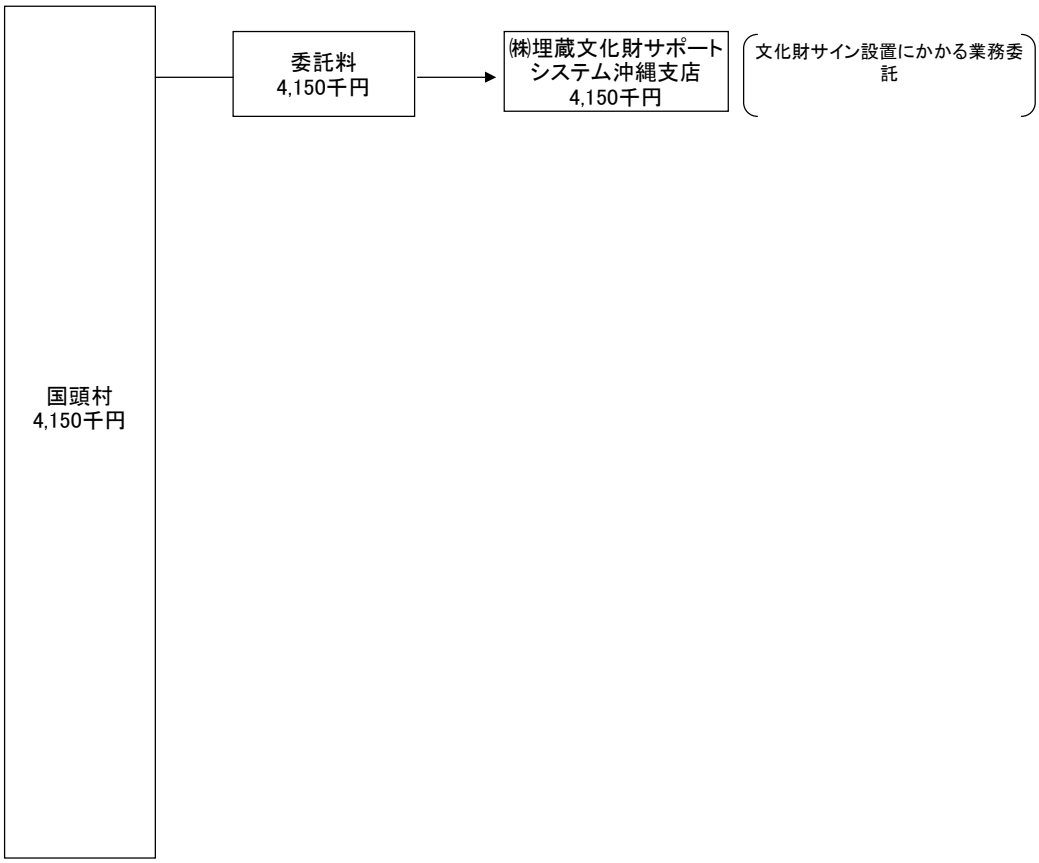
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	サイン設置に関してとくに課題等は見られなかったが、サイン設置個所が沖縄海岸国定公園第3種特別地域であったため、土地の形状変更と広告物設置許可を申請する必要があり、時間を要した。	土地の使用許可、各種申請を早めに行う。

今後の取り組み方針

次年度については比地の神アシャギについて、文化財サインを設置する予定であるが、その設置場所に関しての地権者の確認や各種申請を早めに行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,150	4,150	3,320	830	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-①	「森林業」研修セミナー等実施事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	多種多様な森林資源を活用する「森林業」の可能性を調査・研究すため、専門の講師を招き、研修等を実施するとともに、林道の落葉を活用した腐葉土や製材残差として残るバークを混ぜた培養土開発を実施する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,765				
	(b) 予算現額	2,765				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,765	0			
B. 執行済額		1,281				
うち交付金充当額		1,024				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		46.3%				
予算の状況の説明		不用額の多くは、安価な航空チケットを使用等による旅費の削減と、効率よい機械使用などによる使用料の減である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
森林業研修セミナー実施	目　標	（　3回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3回			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	年度途中の事業実施であったが、当初計画の3回の研修セミナー、視察研修、腐葉土開発試行調査等の事業内容を行うことができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
森林業研修セミナー参加者数	目　標	（　－　）	（　28人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		25人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	研修セミナーの内容は、低炭素社会モデルを中心に行ったが、まだ、なじみの浅い取組でもあり、参加者が目標を下回った。					

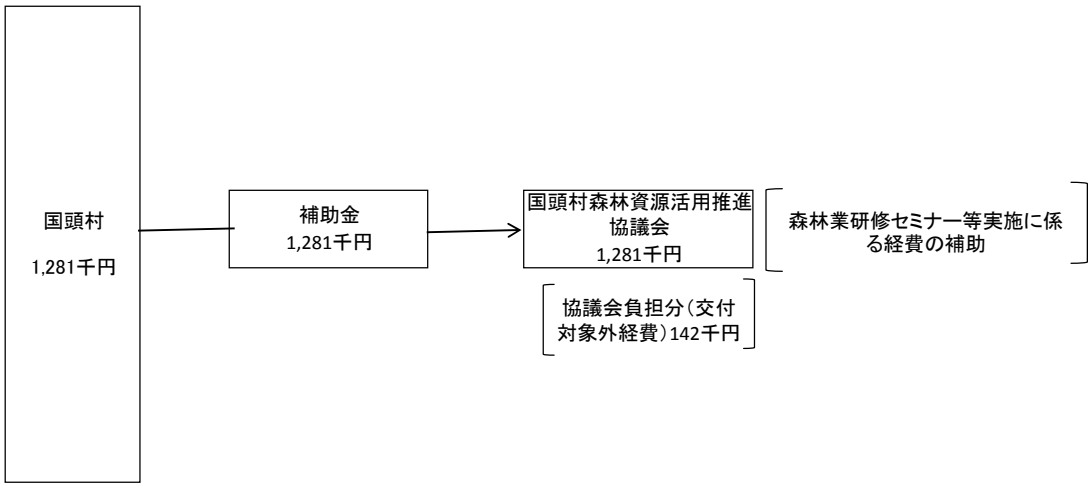
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	研修セミナーの内容を低炭素社会モデル中心に行ったため、参加者にはなじめないことがあった。参加者が、取り組みやすい内容の検討が必要。 林道付近の腐葉土は、天候や場所により数量が大きく変わる。 腐葉土の収集コストは、想定より高くついた。 腐葉土の品質は採取場所により大きくちがう。	研修セミナーの内容を関係者の身近で具体的な話題とする。 林道の腐葉土の効率良い収集方法の検討を行う。

今後の取り組み方針

平成24年度の結果を踏まえ、林道全体の腐葉土調査、専門家等のアドバイスを受けながら、専属の人員による管理を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,423	1,281	1,024	257	142



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	必要最小限の予算により、事業を行うことができた
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-②	有用樹木・有用植物調査及び苗木等開発事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	国頭村の森林に自生する樹木で幹だけでなく葉や香りなどを活用できる樹木や、薬草、寄せ植え、食事の妻もの等に活用される植物などを調査し、苗木の栽培技術を確立する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,395				
	(b) 予算現額	2,395				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,395	0			
B. 執行済額		1,609				
うち交付金充当額		1,286				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		67.2%				
予算の状況の説明		不用額の多くは、苗木開発施設の入札残である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
有用樹種・有用植物調査及び苗木等の開発	目　標	（　苗木開発　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	苗木開発			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	有用樹種等の苗木開発を目指し、苗木開発施設の整備（ﾋﾞﾆｰﾙﾊｳｽ）、開発樹種の検討・苗木の開発を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
有用樹種・有用植物調査及び苗木等開発	目　標	（　－　）	（　500本　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		800本			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・事業開始時期が年度途中であったため、開発樹種が限られてしまい、2種の樹種について取組んでいる。

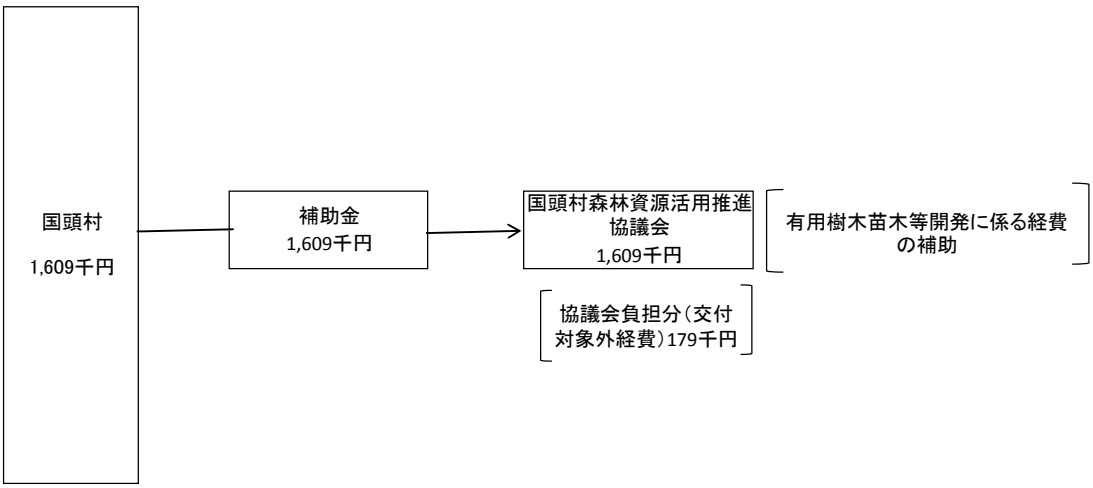
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	樹木・植物は成長の時期が限られているため、年間を通しての活動が必要。 活用の可能性の高い樹種・植物は、数多くあるが、栽培方法が調査されて無いことが多いため、苗木等の開発には専門家等との連携が必要。 苗木開発には日々の管理が重要であり、専属の配置が必要。	年間を通しての計画を立て、専門家等のアドバイスを受けながら、専属の人員による管理を行う。

今後の取り組み方針

平成24年度の結果を踏まえ、年間を通しての計画を立て、専門家等のアドバイスを受けながら、専属の人員による管理を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,788	1,609	1,286	323	179



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	必要最小限の予算により、事業を行うことができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-③	低炭素社会モデル推進調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(3)－ウ 低炭素都市づくりの推進
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

森林の持つ効用を活かすため、県外の山間部や林業地域で取り組まれている低炭素社会モデルの調査研究を行い、国頭の森における低炭素社会モデルの実現可能性を検証する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,723				
	(b) 予算現額	1,723				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,723	0			
B. 執行済額		902				
うち交付金充当額		721				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		52.4%				

予算の状況の説明：亜熱帯地域の森林活かした低炭素社会モデルの計画には、まだ、検討課題の整理が必要なため、調査研修視察等を次年度以降に行うこととした。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
低炭素社会モデル推進調査の実施	目　標	（　調査実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：低炭素社会モデル計画の策定を目指し、国内の状況、今後の動向、当村での取り組み課題及び目指すべき方向を、調査資料をもとに検討した。
亜熱帯の森林での事例がほとんどないなど、検討課題が多く、沖縄県や国とも提携しながらの取組の必要性がわかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
低炭素社会モデル計画の基礎資料作成	目　標	（　）	（　調査実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		調査実施			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：低炭素社会モデル計画の策定を目指し、国内の状況、今後の動向、当村での取り組み課題及び目指すべき方向を、調査資料をもとに検討した。
亜熱帯の森林での事例がほとんどないなど、検討課題が多く、沖縄県や国とも提携しながらの取組の必要性がわかった。

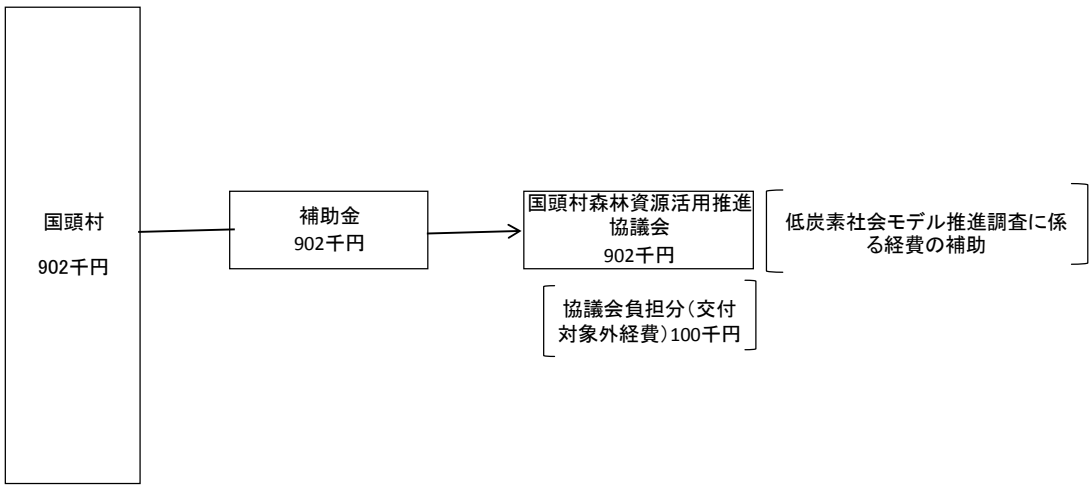
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	亜熱帯の森で低炭素社会モデル検討の基礎となる資料が少ない。 国内の他地域での取組も順調ではない。 国の制度なども流動的である。 モデル計画には専門家の支援や、沖縄県、国との連携が必要。 実効性のある計画の策定には、村民への周知が必要である。	今回の調査でわかった課題解決のためには、時間をかけての検討・整理が必要であり、継続した調査、検討が必要である。

今後の取り組み方針

平成24年度の調査結果を踏まえて、セミナー等を通して調査・検討を継続していくが、事業内容を含め、事業の方向性も検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,002	902	721	181	100



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業の進捗を見ながら、時期や効果を検討しながら事業を進めた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9	平張網掛施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成24年～28年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	国頭村においては、露地栽培作物の柑橘類への有害鳥獣等による被害が多く発生しており、農家の生産意欲を低下させる要因となっている。このため、農家の園地に平張網掛施設を整備し、ノグチゲラ、ヒヨドリ、コウモリ等からの被害を防除する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,100				
	(b) 予算現額	6,100				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,100	0			
B. 執行済額		5,079				
うち交付金充当額		4,063				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		83.3%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、予定通り整備を完了した。執行残は入札残によるもの。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
平張網掛施設の整備	目　標	（　8施設　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	8施設			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：5農家8施設の平張網掛施設（防鳥ネット）を整備した。整備したことによってノグチゲラ、ヒヨドリ、コウモリ等の鳥類からの被害がなくなり、生産意欲の向上が図られる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
平張網掛施設の整備	目　標	（　－　）	（　8施設　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		8施設			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：5農家8施設の平張網掛（防鳥ネット）施設を整備した。今後毎年8施設の整備を進めていきたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	園地の形状が異なり、設計どおりにいかない園地もあった。.設計にあった園地の選定と、園地にあった設計を検討する。	設計に近い園地を選定する。 園地にあった設計は資材等の数量等があるので難しい。

今後の取り組み方針

農家の園地の正確な確認をおこない設計にあっているのか確認する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,643	5,079	4,063	1,016	564

国頭村 5,079千円 ―― 工事請負費 5,079千円 ――→ 金雅建設 5,079千円

（農家負担分（交付対象外経費）564千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負社は指名競争入札で落札した業者と契約したので、妥当であると考えている。 ○受益者には1割負担をお願いしたいるので妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10	ヤンバルクイナの郷づくり構想策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(1)－イ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	企画商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24年～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－12－(3)

事業内容

ヤンバルクイナが生息する自然と共生する安田区及び東部地域の地域活性化を図るため、「ヤンバルクイナの郷づくり構想」を策定し、ヤンバルクイナをシンボルとした地域資源の持続的な活用を展開するため、ヤンバルクイナの森観察センター（仮称）の拠点施設等の整備など、観光産業と地域活性化が連動する各種事業を展開することにより、「ヤンバルクイナの郷」としての地位確立を目指す。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
	(b) 予算現額	10,000				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	10,000	0			
B. 執行済額		9,418				
うち交付金充当額		7,534				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.2%				
予算の状況の説明						

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
ヤンバルクイナの郷づくり基本構想・基本計画の検討（先進地視察、策定委員会開催、ワークショップ開催、むらづくり研修会の開催）	目　標	（基本構想・計画策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基本構想・計画策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

「ヤンバルクイナの郷づくりを目指して、」構想等策定委員会を3回、地域資源等活用に視する先進視察を3回、ワークショップ2回、研修会1回を開催し、ヤンバルクイナの郷づくり基本構想・基本計画を策定した。次年度以降に地域資源活用のための施設整備や運営方法、具体化に向けた展開を盛り込んだ。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
ヤンバルクイナの郷基本構想の策定	目　標	（－）	（基本構想計画策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基本構想計画策定			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

構想・計画策定委員は地域住民が主体的になって策定し、目指す地域の将来像を示し、機運が高まった。策定の取り組みの中で、構想に関連する機関（大学等）と事業展開の連携を図った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	観光地域づくりや活性化を図るためには、地域全体の取り組みが重要である。そのため構想策定に当たって、地域全世帯への周知のための説明会やワークショップを開催したが、各団体代表等、参加者が限定された。	今後において、構想に基づく事業を図らなければならないが、地域住民を巻き込んだ施策の展開を図るために、地域の老若男女を問わず参画を促す機運を高める必要がある。

今後の取り組み方針

平成25年度以降においては構想に基づく事業展開を図らなければならない。そのためには行政主導ではなく、地域住民の意向の反映や、関係する民間団体との連携を図り、構想の着実な着手を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,418	9,418	7,534	1,884	0

国頭村
9,418千円

→ 補助金
9,418千円

→ NPO法人やんばる地域活性サポートセンター
9,418千円

（ヤンバルクイナの郷づくり構想策定に係る経費の補助）

（策定事務費　583千円
視察旅費1,957千円
委託費　6,877千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-①	海抜マップ及び看板設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	H24	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)

事業内容

津波に対する危険性を村民及び観光客に認知してもらい、防災意識の向上を図るため、海抜高度マップの作成及び海抜表示看板の設置を行った。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,581				
	(b) 予算現額	4,581				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,581	0			
B. 執行済額		3,728				
うち交付金充当額		2,982				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		81.4%				

予算の状況の説明：当初予算において計上していたが、補正等を行わず、執行したため、853千円の差額が出た。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
海抜高度マップの作成	目　標	（　5，000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	5，000部			
避難所海抜表示看板の設置	目　標	（　50箇所　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	67箇所			

達成状況説明：海抜高度マップは5，000部を作成し、各世帯へ配布し、残った部数は転入者や集落での避難訓練等に利用する。
海抜表示看板設置は、住民からの追加要望があり、目標以上の成果となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
海抜高度マップの作成	目　標	（　－　）	（　5，000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		5，000部			
避難所海抜表示看板の設置	目　標	（　－　）	（　50箇所　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		67箇所			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：海抜高度マップを各集落に配布することで、津波災害の場合の避難箇所を把握できるようになる。
避難所海抜表示看板を各集落の避難箇所や公共施設に設置することで、土地勘のない観光客も津波災害の場合の避難の目安となる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	海抜マップや海抜表示は、東北大震災以降、住民がいつも危惧している状況で不安に思っていた。国頭村にはGIPシステムが整備されているので、その情報を基に各集落毎の海抜マップを作成し、全世帯へ配布した。また、避難施設を中心に村の主要施設の可罰表示を設置することで、地域住民や観光客等にとって津波の発生による避難時の目安となる。	各集落毎の海抜マップはは、各集落の災害時避難経路や観光客に周知するために不可欠である。 避難所の海抜表示看板は住民や観光客において重要な情報となる。 今後、国頭村防災計画の見直しの中で、避難経路の策定や避難場所の決定に検討材料として、資料の提供を行う。

今後の取り組み方針

次年度は海抜マップや海抜看板を設置することはないが、国頭村地域防災計画において、各集落の避難経路の策定や避難場所の決定等の資料とする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,728	3,728	2,982	746	

国頭村 3，728千円 → 委託料 3，728千円 → 株式会社リック 3，728千円 → 国頭村海抜高度マップ等作成業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で、選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途についての事業目的達成の観点から必要なものであったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-②	国頭村減災地域社会形成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	H24～H28	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)

事業内容

地震・津波、風水害等の災害に対する村役場の災害対応力と村域全体の防災力の向上を図るため、地域防災計画や災害時初動対応マニュアルを策定するとともに、自助・共助支援のための観光地域防災訓練や防災学習を実施する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,399				
	(b) 予算現額	3,465				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,934				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,465	0			
B. 執行済額		3,465				
うち交付金充当額		2,772				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
集落毎防災訓練の実施	目　標	（　10集落　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	10集落			
地域防災計画（新基準）策定に向けた基礎調査の実施	目　標	（　基礎調査　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基礎調査			

達成状況説明：
各集落において、防災訓練を呼びかけ、住民の防災意識の向上に努めた。
国頭村には20集落があり、そのうち10集落が村の呼びかけにより、訓練に参加した。
国頭村の地域防災に関わる現状（自然環境、社会環境、公共施設等の状況、災害の履歴）を整理した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
集落毎防災訓練の実施	目　標	（　－　）	（　10集落　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		10集落			
地域防災計画（新基準）策定に向けた基礎調査の実施	目　標	（　－　）	（　基礎調査　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基礎調査			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
村民の防災意識の向上のために、防災訓練を呼びかけた結果、10集落が実施した。
新基準の防災計画を策定するための基礎調査を実施し、次年度の計画策定への基礎資料とする。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	国頭村地域防災計画は平成16年度に策定され、見直しがされておらず、新基準による見直しが必要である。 特に東北大震災後に沖縄県も地域防災計画の見直しを行い、各市町村へ指示、指導していることから、地震、津波、風水害に対する地域防災計画を早急に策定する必要がある。	現行の防災計画の課題抽出及び集落別の地域診断を行い、へき地や過疎地域に適した地域防災計画の在り方を検討し、これと現行の地域防災計画を比較することにより現状の課題を明らかにする。また、津波避難訓練地域及び風水害（土砂災害）避難困難集落等の地域診断を行い、災害弱地域の明確化を行う。これらから得られた課題に対し、対策案を提示する。

今後の取り組み方針

基本調査により、得られた、情報を踏まえ、国頭村に適正な防災計画となるよう、村全体を対象とした減災事業、各集落を対象とした減災事業、必要な施設整備についても考慮した地域防災計画にする必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,465	3,465	2,772	693	

国頭村 3，465千円 → 委託料 3，465千円 → 株式会社 中央コンサルタント 3，465千円 → 国頭村災害事前危険度評価業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で、選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途についての事業目的達成の観点から必要なものであったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-③	集落別減災地域社会形成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	H24～H28	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)
事業内容	各集落の減災社会の形成のために各集落と調整を行い、安全・安心な避難路や避難施設の調整を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,077				
	(b) 予算現額	10,100				
	(c) 増減額 (b-a)	23				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	10,100	0			
B. 執行済額		6,338				
うち交付金充当額		5,070				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		62.8%				
予算の状況の説明		交付決定時期の関係で、事業規模を縮小した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
桃原区避難経路実施設計の実施	目　標	（ 避難路実施設計 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	避難路実施設計			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：桃原区とリゾートホテルからの観光客の津波減災対策として、避難経路を整備するための実施設計を行う。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
桃原区避難経路実施設計の実施	目　標	（　－　）	（ 実施設計 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：減災社会の形成のため、今年度はリゾートホテルに最も近い桃原区に津波に対する避難経路を策定するための実施設計を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	桃原区において、これまでは、津波に対する住民の認識が乏しく、避難を想定していなかったが、昨年度から、区長を中心に自主的に津波を想定した避難訓練を行った。 その結果、道は狭く、坂も急こう配のため、災害弱者のお年寄りや障碍者には非常に厳しかったので、住民で話し合い、避難路の整備を進めるよう要請があり、村としてもリゾートホテルと隣接していることから早急に進める必要がある。	桃原区は海岸の近くで、海抜5m以下の低い集落であるため、津波の発生時に区民が避難できる場所は限られている。 隣接するリゾートホテルの観光客も車が利用できないときは、そこに避難するしかないため、早急に整備する必要があることから、今年度は実施設計を行い、次年度に工事を行う。

今後の取り組み方針

桃原区の集落内においては、土砂災害は皆無といっていいが、津波に対しては海抜は低く高い建物もないことから、早急に避難路として整備する必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,338	6,338	5,070	1,268	

国頭村
6，338千円
→
委託料
6，338千円
→
有限会社
アートシビル
6338千円
→
桃原区災害避難路設計業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で、選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算は、事業計画変更により、減額すべきであった。 ○費目・使途についての事業目的達成の観点から必要なものであったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	国頭村

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	12	観光地の施設整備促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	企画商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度～２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	自然資源を利用する観光客やビーチ利用者等へのサービス向上を図るため、観光地内の老巧化した施設（公衆トイレ・シャワー等）を整備し、施設利用者の利便性及び快適性の向上とリピーター確保を目指す。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,192				
	(b) 予算現額	1,192				
	(c) 増減額 (b−a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,192	0			
B. 執行済額		1,050				
うち交付金充当額		840				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		88.1%				
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
辺土名ビーチ公衆トイレ・シャワー施設実施設計	目　標	（　実施設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	自然資源を利用する観光客やビーチ利用者等へのサービス向上を図るため、観光地内の老巧化した施設（公衆トイレ・シャワー等）を整備するための実施設計を完了したので、平成25年度には公衆トイレ・シャワー施設整備を図る。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
辺土名ビーチ公衆トイレ・シャワー施設実施設計	目　標	（　－　）	（　実施設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	辺土名ビーチ公衆トイレ・シャワー施設実施設計を全て完了し、それらを活用し、平成25年度に施設整備し、観光客の誘客、地域住民の利便性の向上による、地域活性化を図る。					

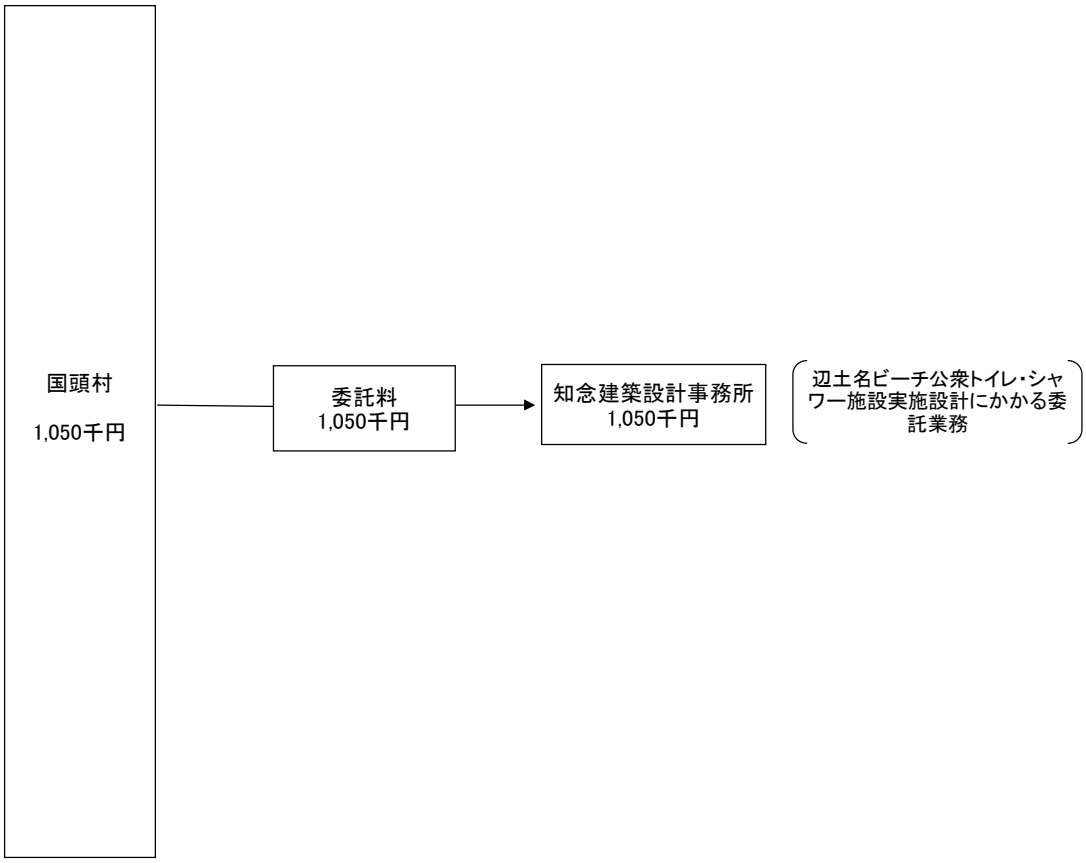
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	観光施設の老巧化によるサービス低下の解消が図られる事により観光客誘致活動を推進する事ができる。また、地域行事や地域住民サービスの向上にも繋がる。	実施設計において、現状の公衆トイレが汲み取り式で不衛生であり、浄化槽の整備が必要という点と、引き続き、観光客と地域住民の利便性を高めるためシャワーも整備する。

今後の取り組み方針

整備した実施設計を元に、平成25年度において辺土名ビーチ公衆トイレ・シャワー施設を整備し、観光客、地域住民の利便性の向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,050	1,050	840	210	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により選定しており、妥当であった。 ○予算規模、内容は目的に達しており、費用・使途についても事業の目的に対し、適正に執行されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	14-②	地域資源継承・交流拠点整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(7)－イ 交流と共創による農山漁村の活性化
担当部課名	企画商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24～平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

国頭村与那地区において、グリーンツーリズムやエコツーリズム、文化ツーリズム（海神祭や豊年祭、田舎の暮らし等）等による観光客との交流・体験活動を促進するマスタープランを策定するとともに、文化交流や体験活動の拠点となる施設を整備する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,158				
	(b) 予算現額	4,158				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,158	0			
B. 執行済額		3,478				
うち交付金充当額		2,782				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		83.6%				
予算の状況の説明		不要額の634千円は、旅費及び報酬の減であり。事業内容はすべて執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
交流拠点施設整備マスタープラン作成	目　標	（マスタープラン策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	マスタープラン策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：国頭独自の体験交流型観光の受け入れ体制を強化することにより、民泊体験を目的とした観光客の増加が期待できる。また、交流拠点施設を整備し、地域コミュニティ活動の活性化による多世代間の交流の場を創出することで、新たな国頭村ファンやリピーターの獲得が図られる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
交流拠点施設整備マスタープラン作成	目　標	（－）	（マスタープラン策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		マスタープラン策定			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：国頭独自の体験交流型観光の受け入れ体制を強化することにより、民泊体験を目的とした観光客の増加が期待できる。また、交流拠点施設を整備し、地域コミュニティ活動の活性化による多世代間の交流の場を創出することで、新たな国頭村ファンやリピーターの獲得が図られる。

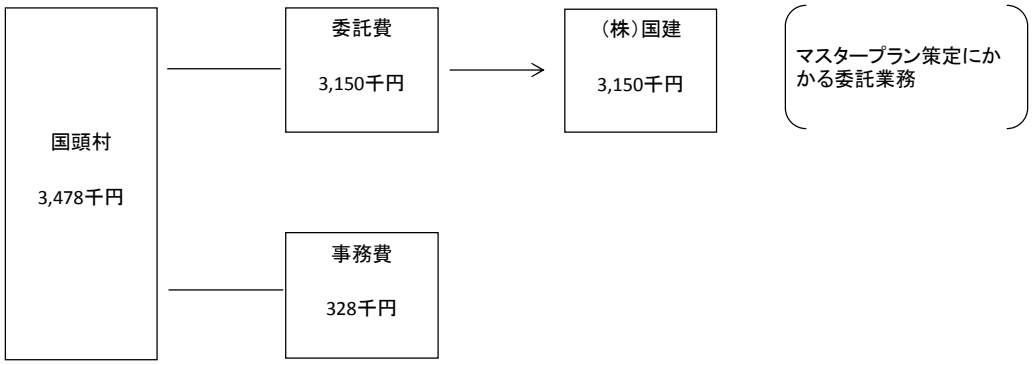
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	地域の概況を把握し、地区で行われている地域資源交流継承活動や交流活動について整理する。また、今後こうした活動に活用しうる地域資源についても合わせて整理する。	与那地区の活性化マスタープランについて検討するとともに、新たな活動拠点施設の整備方針、導入機能について位置づける。

今後の取り組み方針

平成25年度おいてマスタープランの計画を実施設計に活かし住民との連携を図りながら進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,478	3,478	2,782	696	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託費について指名競争入札により落札した業者と契約したので、妥当であると考えている。 旅費について事業目的達成の観点から必要な支出であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	